



会場をうめつくす熱心な参加者

# 第4回 全国修学旅行研究大会開く

## 11月20日 名古屋で

### 新しい修学旅行の 実践求め350名集う

財団法人全国修学旅行研究協会(山本種一理事長)と、東海三県中学校修学旅行委員会(荻原克巳委員長・春日井市立中部中学校長)とが主催し、文部省、都道府県教育長協議会、岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市の各教育委員会、後援、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会(石川敏夫会長・水戸市立第二中学校長)の協賛による第四回全国修学旅行研究大会は、十一月二十日(金)十三時三十分から、名古屋教育館で開催され、会場をうめつくした三百五十名の熱心な参加者、深い感銘を与えて、盛會に終った。

研究大会は加茂健三氏(岡崎市立城北中学校長)の司会で始まり、堀光一氏(四日市市立中部中学校長)が「好天に恵まれ各地から多数の先生方のご参加を得て喜ばしい」と、開会の辞を述べた。

ついで、主催者側代表として全修協山本理事長は、「近年新しい教育のあり方が問われているとき、本研究大会の十分な実りを期待したい」とのべ、東海三県修学旅行委員長は、「教育改革は修学旅行から」とあいさつした。

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会  
 発行人 前田 寛  
 東京都千代田区西神田(丸の内線) 2-7-7 (電話) 2426・2932  
 東京 2-8-2 (電話) 2426・3633  
 東京 2-8-2 (電話) 2426・3633

修学旅行は、学習を社会へ移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育に極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常態の改善に努力し、ついで教育効果の充実に努める事は必要であり教育界に課せられた責務である。

(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書から)

「修学旅行は生涯の思い出の大きな一ページであり、より深い研究が望まれる」と、また三地区修学旅行石川会長は、「修学旅行は質的転換の時期にある、本日皆さんと共に学びたい」とそれぞれ祝辞を述べた。

研究発表のはじめは、一思いに残る修学旅行の実践を求めて」と題する名古屋市立平針中学校長後藤隆郎氏で、市内中学校の十余年間の共同研究である修学旅行の実態調査が発表し、最近の修学旅行指導事例集に至った過程をのべ、来世紀に生きる子どもらへ、修学旅行を通じて「望ましい

つきに卒業として、愛知県教育委員会久野信之氏は、教育課程の基礎の改善については、教育課程審議会から十一月二十七日に「審議のまとめ」が発表され、十二月二十四日、最終答申がなされる予定である。

中学校に対しては、来年七月から八月にかけて、全国を五地区に分け、学習指導要領案説明会を行い、九月頃新中学校学習指導要領が告示され、十二月頃までに各県の趣旨徹底が図られて、六十四年四月以降一年生から学年進行で移行措置にふみきり、六十八年四月から全面実施の予定である。



これは情報を選択し、理解し、判断し、活用する情報に対する適心力を強めることを第一とし、二つ目は、情報モラルの確立、三つ目は機器の活用をのべている。

3、国際対応  
 これは「中間まとめ」でものべられているが、我が国の文化と伝統の尊重と国際理解

は平行する。修学旅行は特に関係が深い。今後は手段方法がより工夫されるべきである。

4、学習指導のあり方  
 これがきめ細かく見直され、個人差に応じた学習指導のあり方がとりあげられ、学級の枠を超えて学習集団を弾力的に編成する(習熟度別学習)ことも考慮されることと

### 今後の修学旅行の在り方

(講演要旨)

文部省初等中等教育局教科調査官 高橋哲夫氏

この方向についてであるが、修学旅行に対する最近の客観的動向についてお話をしよう。

文部省は十月十九日都道府県教育委員会連絡協議会を開き、去る四十二年に出した「遠足修学旅行についての通達」の見直しを含め、実施基準の検討に問題提起を行った。この背景には、最近修学旅行

散行動で、一年時からの積み重ねで生徒の意識化を強め、新企画二年目ながら所期の目的は達成されたと報告した。

研究協議会に入り、司会は浅田照次氏(江南市立布袋中学校長)が担当し、二年から三年への教師、生徒の編成替え、事前指導の時間確保、班編成の方法、自由行動中の食事のとり方等について研究が深められた。

休憩ののち、文部省教科調査官高橋哲夫氏の「学校教育改善の方向」と題する講演が行われ、今後の修学旅行の在り方」と題する講演があり、教育課程審議会最終答申を控え、学習指導要領改訂に伴う今後の学校教育の基本方向を示唆し、修学旅行改善の方向をハード、ソフトの両面から言及され、正にタイムリーな講演であった。

古田文兵氏(美濃加茂市立西中学校長)の開会の辞で、予定通り十六時三十分終了し

△開修委研究発表会  
 日時 昭和63年1月19日(日)  
 会場 埼玉県大宮情報文化センター(宇都宮劇場)  
 JR大宮駅西口前

研究発表者  
 (1)朝霞市立第四中学校 教諭 小日向勝美氏  
 (2)大宮市立第二中学校 校教諭 川上次雄氏  
 研究協議 修学旅行実施上の問題点

を了し、次回全国大会を茨城県で開催すること等を決めた。

(関連記事二、三面)

全国修学旅行研究大会  
 次回は茨城県で開催  
 三地区修学旅行

「全修協概要」作成中  
 財団法人全国修学旅行研究協会では、会の活動を要約、一目でわかる写真入りリーフレットの作成にとりかかっている。

修学旅行の改善・向上と諸研究、教職員研修旅行、参考文献、新聞の発行等、文部省許可の研究財団の概要を紹介。

新書完成の見込である。

からんでいる。学習者の立場との整合は、学校教育を根本から見直す重要な課題をはらんでいる。実験学校を設定しながら世論を見守ることになるであろう。

以上が、教育課程審議会に「審議のまとめ」の方向である。

次に修学旅行の今後の改善状況である。

次に、今後の改善の方向であるが、先ずハード面については、文部省が先日の連絡協議の結果を十分参考にし、今後各県の実施を把握した上、文部省としての方針を検討し、可能となれば来年度からの実施に向けて新しい方向を示すとも考えられる。

ソフト面については、修学旅行のねらいの見直しがあげられる。昭和六十年文部省が特別活動の全国調査を行い、これを加味することも極めて大切である。

(文責・編集部)

一九八七年は足早やに往くが、この年は教育界にとって歴史的な年になると思う。豊かな暮らしと心の貧しさの中で学校の荒廃が問われ、それを克服し二十一世紀への展望をひらく年として今年に明けただが、一月から十二月まで、びっしりと教育改革への提言が相次いだ。一月二十四日臨時審議は審議経過の概要(その1)を公表し、個性重視と生涯学習体系への移行を掲げた。これに対する各界の批判意見を聴いて、四月一日には第三次答申を行った。これは六十二年春の第二次答申とともに、今回の教育改革の基本答申となるものであるが、国際化への早急な対応が注目された。八月七日には第四次答申(最終)を行い、通算六百八十八回、二千余時間の審議をもつて三年の任期を終えた。この答申は三次にわたって示された改革提言を整理し、臨書審議としての結論をまとめたものであるが、この提言を、教育の現場に、こども達一人ひとりの成長にどう生かすのか、これらが教育改革のスタートであるというところから見た。また、政府は十月六日の閣議で、臨書審議や教育改革の視点を踏まえ「教育改革推進大綱」を決めた。十一月二十七日には、教訓審が「審議のまとめ」を公表し、十二月二十四日の本答申の草案とした。しかし、これらの声高な論議を要するものはこれからである。竹下首相はふるさと創生という。学校を心のふるさとに創生するのが教育改革であり、修学旅行はこのふるさとの「魂追いしあひの山、川」なのである。

信頼される旅づくり

## 先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません！」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。  
 先生と、そして友と行った修学旅行。  
 かけがえないふれあいが、よき思い出として  
 ひとりひとりの心に残る、そんな旅にしたいですね。  
 ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する  
 修学旅行は、各方面より多大な好評を得ています。  
 それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、  
 なんなりと近畿日本ツーリストにご相談ください。

近畿日本ツーリスト 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111代 支店 国内242ヵ所(登録) 海外14ヵ所  
 © 運輸大臣登録一般旅行業第20号



